

近角聡信:研究者のための話し方教室(相手の理解力を知ること大切)

中村輝太郎編著:英語口頭発表のすべて 1982, 丸善出版

さて、以上に述べたのは、話題に関する相手の関心度や興味や理解度を察することであったが、相手の理解力を知ること大切である。理解力もない人に難しい話しをしても詮のないことである。そのような相手に順を追っていねいに論理的に説明をすすめれば、わかりやすくなるかという、必ずしもそうではない。それは人によって理解の形式が異なるからである。

たとえば、月夜に子供をおんぶして、夜道を歩いていた時に、背中の子供が、「お父ちゃん、お月様はなぜ私達についてくるの？」

と聞いたとする。お父ちゃんが数学者だとすると、

「われわれと月との間の距離を r とせよ。われわれが距離 1 だけ進んでも、われわれから見た月の方向は、 $1/r$ [rad] しか変わらず、 $r \gg 1$ であるから、この角度は甚だ小さい。だから月は常に同じ方向に見えるのである。」

と説明するかもしれない。しかし、この説明では背中にいる子供は理解できないだろう。

もしお父ちゃんが魚屋さんで、

「おめえ。おたりめえじゃないか。お月様はいつも、おれたちと一緒においでになるんだよ。」

といったとすると、論理的にはわかりにくい、子供にはわかったような気がするのであるまいか。「一緒においでになる」という意味が大きな尺度の空間で月とわれわれの位置関係を想像させるのなら、正に正しい理解を与えることになる。